

肛門疾患



外科
菊地 医師

「排便時に出血した」、「肛門が痛い」、「肛門にしこりを触れる」、「便が残った感じがする」などの症状を感じた方が内科、外科、産婦人科などを受診されることは少なくはありません。これらの症状をきたす疾患のほとんどは直腸や肛門に起因する病態であり、そのなかでも肛門疾患、特に痔核(一般的には“痔”)・痔瘻・裂肛が多くを占めています。ここ最近は新型コロナによるステイホーム・リモートワークの影響があるのかこれらの疾患で受診される患者様が増えている印象を受けます。排便習慣と生活習慣が大きなリスク因子であることは従来より言われており、便秘による排便時の過度の怒責や長時間の同一座位姿勢が少なからず影響を与えているという報告があります。ここではこの3疾患のうち最も多い痔核につき簡単に記載しておきます。

痔核は出血・疼痛・脱出・腫脹・掻痒感・粘液漏出が主症状ですが、痔核の発生部位・大きさ・慢性期と急性期などによって症状が変わってきます。痔核による出血は痔核表面の損傷によるものであり比較的鮮明な赤色を呈し一時的な出血で持続しないことが多いといわれています。暗赤色の出血や便に混ざった出血があるようなときには直腸やそれよりも口側の大腸からの病変が疑われますので精密検査が必要になることが多いのでかかりつけ医または消化器内科受診をお勧めします。痔核脱出は排便時に生じることが多いですが、時に運動時や重いものを持ちたりしゃがんだりした際にもあり、また、実際には痔核脱出ではなく直腸・肛門ポリープ脱出や全周にわたって脱出する直腸脱の場合もあります。肛門掻痒感を伴う場合には、排便後の清浄がうまくできていないことや粘液の漏出による便や粘液による皮膚への刺激が主因ですが、過度の清浄による皮膚表面の微細な損傷が原因のこともあります。治療には保存的治療法と外科的治療法があり、痔核の臨床病期分類によりどのような治療法が良いのかを診療ガイドラインで推奨されています。保存的治療・外科的治療の基本となるものは“生活習慣の改善”です。長時間の座位、これからの季節で多くなる寒冷下での作業、排便時の怒責、飲酒、体の疲れ、精神的ストレス、体の冷えをなるべく避けて、食事習慣としては十分な水分量の摂取と食物繊維の摂取を、排便習慣としては過度な怒責や長時間の排便(便器に座り続けること)を避け、便意をがまんしないことを勧めます。

最後に、肛門疾患はデリケートな部位であり診察をためらうことも多いですが、不安・精神的ストレスをためないよう積極的に受診してみても良いでしょう。



院内デイケア



患者さまの作品
割り箸でつくる壁掛け飾り

院内デイケアを開催しました。高齢者の方々との触れ合いと、病院としての対応を学ぶ目的で開催しています。

文字の色は？



医療・健康管理業務研究報告会



9月24日、医療・健康管理業務研究報告会が開催されました。業務研究とは業務の改善及び効率化、安全の推進、社員の知識・技能の向上等を図り、会社の発展に資することを目的として行っているものです。発表はoffice365を用いてオンラインで行われ、慣れない発表方法でしたが、しっかりと自分たちの取り組みを報告することができました。当院からは5チームが参加し、看護部、リハビリテーション科、事務部で取り組んだ「地域包括ケア時代における当院での入退院支援システムの構築」が優秀賞に輝きました。

医療の豆知識 ～内視鏡検査のススメ～

「内視鏡検査＝怖くて辛い検査」といったイメージをお持ちの方も多くおられると思います。検査に対する不安をお持ちの方や、以前胃カメラの際に反射が強かった方には、細径や経鼻内視鏡といった機器の選択、またご希望により鎮静剤を使用した検査を行っております。皆様に安心して検査を受けていただく為に、鎮静剤使用に関する注意事項をお伝えします。①最低1時間は病院内で休んで頂き、真っ直ぐ帰宅してください。②帰宅後は外出せず、足元に十分注意してお過ごしください。③当日は、車・バイク・自転車の運転はできません。④飲酒は控えてください。こちらの条件全てに同意頂き、医師の許可が得られた場合に使用可能となります。



昨今、大腸内視鏡を受けることで大腸がんリスクを減らすことや、ピロリ菌を除菌することで胃がんを減らすことが分かってまいりました。内視鏡検査で一番大事なことは、より多くの皆様に「検査を受けてみようかな」「また検査を受けよう」といった気持ちになって頂くことです。過去に1度も胃カメラを受けたことのない方、バリウム検査しか受けたことのない方は、胃カメラを受けることをおすすめします。自覚症状のない早期胃がんや食道がんを診断することができ、ピロリ菌の感染診断を行い、当院で除菌治療まで行うことができます。また仙台市胃がん検診内視鏡検査は当院も該当施設となっていますので、対象の方は是非ご検討ください。当センターの看護師全員が日本消化器内視鏡技師の資格を有しており、責任ある質の高い看護の提供を目指し、日々努力を重ねています。何か気になることやお困りの際は、是非お声がけください。今後もスタッフ一同ホスピタリティの充実を目指し日々研鑽して参ります。

【内視鏡センター 看護師長 菅崎 佳子】

お知らせ

10月1日より、健康管理センターに「人間ドック科」が新設されました。

脳卒中や心臓病、がんなどの『生活習慣病』は、際立った自覚症状がなく進行するのが特徴で、人間ドックなど専門的な検査で身体を定期的にチェックし、早期による発見が大切です。なお、当院では『日帰り人間ドック』のみ実施しております。人間ドックの詳細は当院HPをご覧ください。



新任スタッフ紹介

氏名：尾崎 泰（おざき ひろし）

内科 医長

出身地：愛知県

趣味・特技：旅行

ひとこと：大学で培った経験、知識を活かし甲状腺疾患、生活習慣病を中心とした内科診療に取り組んでいく所存です。よろしくお願ひ致します。



氏名：洞口 正志（づぐち まさし）

外科 医長

出身地：宮城県

趣味・特技：スポーツ観戦、飲食

ひとこと：これまでは胸腔鏡下食道切除を中心とした消化管手術と術前術後の補助化学療法から切除不能・再発消化器癌の化学療法に従事して参りました。癌治療に御不安な方には十分に説明する事しか出来ませんが、納得の上で医療を受けていただけるように心掛けて参ります。



氏名：鷲谷 宗秋（わしや むねあき）

臨床検査科 主任医療技師

出身地：長野県

趣味・特技：野球

ひとこと：検査技師として、迅速・正確な検査結果を出せるように頑張ります。



氏名：上杉 章紀（うえすぎ あきのり）

薬剤部 副医療技師長

出身地：栃木県

趣味・特技：スキー、水泳

ひとこと：相談しやすく、話しかけやすい薬剤師でありたいと考えています。よろしくお願ひいたします。



理念

高度で良質な医療と心のこもった患者サービスで地域社会に貢献し、調和のとれた企業立病院をめざします。

院 是
調 和